

第 58 回 日本生殖医学会

2013.11.15-16. 兵庫

人工授精から体外受精へステップアップが必要な精液所見とは？

堀金 聖羅・佐藤 学・赤松 芳恵・橋本 周・姫野 隆雄・大西 洋子・井上 朋子・  
伊藤 啓二郎・中岡 義晴・森本 義晴

目的：人工授精(intrauterine insemination :IUI)は精液所見を不良とする不妊に適応され、当院においても不妊治療の初期段階として施行している。しかし IUI での妊娠率は IVF に比べ低く、また当院で IUI を受診する患者年齢は上昇している。そのため時間的な制約が増しており、早めのステップアップを考える必要がある。そこで IUI を行うか、IVF へステップアップするかの基準を設定することを目的とし IUI 妊娠者の精液所見を後方視的に調べた。

方法：2003 年 10 月から 2013 年 3 月までに当院で IUI を施行し陽性反応を示した 696 症例を対象とした。平均年齢は  $33.7 \pm 0.14$  歳であった。原精液をマクラーチャンバーで、総精子濃度、運動率を測定した。総精子濃度は低値群： $20 \times 10^6/\text{ml}$  未満、中値群： $20 - 75 \times 10^6/\text{ml}$  未満、高値群： $75 \times 10^6/\text{ml}$  以上に分類し各群での割合を比較した。運動率は低率群： $40\%$  未満、高率群： $40\%$  以上の 2 群に分けて同様に検討した。

結果：総精子濃度は低値群 51 症例、7.3%、中値群 333 症例、47.8%、高値群 312 症例、44.8%であり中値群、高値群間で差はなかったが、低値群は有意に低かった( $P < 0.01$ )。運動率は低率群 77 症例、11.1%、高率群 619 症例 88.9%に比べ有意に低かった( $P < 0.01$ )。

結論：今回の検討から原精液のデータに伴って IUI を実施する一定の基準を見出すことが出来た。特に総精子濃度が  $20 \times 10^6/\text{ml}$  以下の症例において IUI 妊娠反応陽性を示す数は少なく、早めのステップアップが必要であると考えられる。